

平成23年度第3回八幡地域協議会会議録（概要）

日 時 平成23年7月7日（木）午後3時30分～午後5時10分

場 所 八幡タウンセンター 第3・第4会議室

出席者（9名）

1号委員 後藤清憲 堀 直良 長谷川明子

2号委員 阿曾千一 池田善幸 阿部喜至夫 高橋知美 池田久浩

3号委員 後藤征四郎

八幡総合支所：地域振興課長 後藤 修、市民福祉課長 大淵 洋、建設産業課長 阿部幸秀、
八幡病院事務長 佐藤 弥

地域振興課 鳴瀬 勉 池田裕子

欠席委員 加藤久美 佐藤 訓 高橋せつ子 後藤純子 荒生道博 小松幸雄

傍聴者： なし

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 協議
(1) 八幡地域ビジョン（案）について
- 5 その他
- 6 閉 会

1 開 会

○長谷川明子副会長 これより、第3回目の地域協議会を開催します。都合により欠席の連絡のあった委員は、高橋せつ子委員、後藤純子委員、荒生道博委員、小松幸雄委員の4名です。会議次第に従いまして、池田会長から、あいさつをお願いします。

2 会長あいさつ

○池田善幸会長 前回5月26日の会議でビジョンの素案が示されたが、皆さんの意見を基に事務局から再度まとめてもらったので、皆さんから再検討していただいて、より良いビジョンを作ってゆければと思われる。

3 会議録署名委員の指名

○長谷川副会長 会議録署名委員の指名を行います。今回は3番の後藤清憲委員にお願いしたいと思います。後藤委員よろしくをお願いします。

○後藤清憲委員 わかりました。

○長谷川副会長 それでは、協議に入ります。会長が議長となり進めていただきます。

4 協議

○池田議長 今日の議題の地域ビジョン（案）について、事務局から説明願います。

○後藤修地域振興課長 資料No.1～No.4について説明

○池田議長 ただ今の説明に関しまして皆さんのご意見、ご質問を伺いたいと思います。

○阿曾千一委員 委員の意見の中で、「優先順位と目標の設定」とあるが、これは貴重な意見だと思う。時代と共に前倒しで急がなければならない項目や、かなりのスピードで見直しを懸けなければならない状況が出て来る可能性があるのでは。事業を実施するにあたって、このビジョンに見直し云々の文言を載せる必要はないのか。

○後藤地域振興課長 過疎計画にはハード事業とソフト事業を何年かの間にやりますということで事業名が出て来るが、地域ビジョンについては、平成29年度に向けて、この地域をこういう風にやっていきたいといった将来的な姿を表したものになっている。政策推進課からは7月から事業について順次挙げてもらって担当課と話を詰めて地域に下りていって、どんどん事業を進めてもらいたいということになっている。毎年1億5,600万円程、国から事業費ということで市に来るが、そのほとんどが5つの基金に積み立てとなっていて手付かずになっている。毎年、基金が積み立てになって何もしないということは問題になる訳であり、本所を含む旧3町で出せるソフト事業はどんどん出してもらって地域ビジョンに訴えるようにしてゆければと思われる。今、過疎ソフトについては本所で「勉強会」というものがあるが、これを「プロジェクトチーム」に名称を替えていよいよ動き出すことになっていて地域振興課の池田係長もメンバーに入っている。見直し云々の文言について、ビジョンについては「このような地域にしたい」といった表現方法になっており、具体的なソフト事業については委員の皆さん方に相談しながら挙げていきたいと思っている。

○池田議長 地域ビジョンは骨組みといった考え方で良いのではないのでしょうか。

○後藤征四郎委員 産直「たわわ」について、午後になるとどうしても商品が少なくなるので、商売で見ると不自然な感じがする。1日中売れるような工夫はないものだろうか。

○阿部喜至夫委員 それは「たわわ」が発足以来の課題であり、どうすれば良いか問題にな

っている。組合員57人の現状では精一杯やっている状況である。ありがたいことに供給よりもお客さんの方が多く来てもらっていて商品が品薄になっている。だからといってお客さんが多いから仕入れを制限なくやってしまうとスーパーと変わらなくなってしまふ。その辺をどうやって線を引こうかといったところだ。商品を増やす努力はしているが、なかなか行政からの応援だけで簡単にクリア出来る問題でもない。

○阿曾千一委員 「たわわ」だけでなく農村の集落あるいは農業全般がそうだが、今まで頑張ってきた人達がお年を取られて世代交代を迎えようとしている。5年後、10年後にだれがこの地域の農業を担うんだとなり、そこに問題・課題が出て来ていると思われる。

○阿部喜至夫委員 八幡の農業の状態が集約されているのが「たわわ」だ。57人いる組合員のうち11人が75歳以上であり、八幡全体、市全体がそういう状態なので、商品が少ないといったことや専業で農業を大きくやっている若い人がほとんど少ないといった状況が店の方にも反映されているのではと思われる。

○後藤征四郎委員 冬場の商品の品薄の問題もある。簡単な問題ではないので、そういったことを皆で知恵を出し合って検討しなければならない。

○後藤清憲委員 各事業に対して優先順位をつけてやったらといった提案は自分が出したものであるが、膨大な資料と作業工程を考えるとひとつひとつ消化するにあたって、現実として、この八幡地域で出来ること、出来ないことは当然出て来ると思われる。そうすると、どの項目が一番この地域に適しているのかといったことが重要になってくる。それと、事業として店舗を構えるからには、お客さんにとって品切れということはあってはならないというか、常時、商品をそろえておくのが商売の原則なのでは。地域の農産物をブランド化するには「いつ何時きても生産者の顔が見える安心できるブランド品がありますよ」となるのが然るべきであって、組合員数が少なく、多量の作物の納品が難しいのであれば、逆に営業時間を短縮して目標の売り上げを目指した方が効率的ではと思われる。たとえば東京の商店街は各地に「にぎわい館」があって、いつも人がいっぱいであり、物は良く売れるし、短時間で販売することが出来る。そういう面から、色々なことを考えたほうがよろしいのでは。

○後藤征四郎委員 商品を多く出して供給過剰になれば野菜だったら漬物にするなどの方法が考えられるし、今は売る物が不足しているのが問題であり、物を多く作るにはどうすれば良いかを皆で考える必要があるのでは。

○池田議長 この関係の話については、当事者の皆さんが実際の経営や八幡地域の活性化を含めて一番肌で感じていることであり、今後も皆さんからそれなりに応援していただきたいと思われる。

○高橋知美委員 「自然資源の保全と利活用」の中の「家族旅行村を活用した小学校自然体験学習の推進」を含めた件だが、教育というものは必ずお金がかかるものであり、教育をきっちりするためのお金を削ったりすると、子ども達への教育が中途半端になってしまう。教育については基金に積み立てるのではなく、子ども達の将来のことを考慮して、それなりの予算をつけていただき、きっちりと子ども達により良い教育を提供していただきたい。

○後藤地域振興課長 家族旅行村の自然体験学習については、酒田の23の小学校の子ども達が従来、金峰少年自然の家に行っており、酒田市長が「鳥海山の旅行村があるのになぜ鶴岡まで行くのか」と常々思っていたそうで、今年度から計画が始まっている。金峰だとほとんど無料で利用できるが、旅行村だと相応の料金がかかる。しかし、その費用分は市で負担することで話が進んでおり、これからは鳥海山で子ども達に自然体験学習を学ばせることになる。

○高橋知美委員 地域のための事業を助けるボランティアとしての協力は惜しまないが、事業そのものをボランティアで賄おうという考え方はいかななものか。ボランティアとしての知識や情報は力であり財産である。ひとつの知識を得るためにたくさんの労力とお金をかけてきて、その知識を基にやってきている。地域のための事業でも「ボランティアとしてやる考え方」と「きっちり専門的にやる考え方」では事業に向き合う姿勢が変わってしまう。確かにボランティアでも、きっちりやっている人はやっているが、ボランティアの質とか経験の問題があり色々な人がいる。そのような人達をいかに使うかというのが問題であって、特性を知った上でボランティアの集合体でやるんだったら良いが、ただ単に「この団体で、この人をお願いします」とか「こちらの団体さんは、これをお願いします」だけではバラつきが出てしまう。そうなると金峰じゃなくて旅行村でとなっても、子ども達への安全面の配慮等で歪みが出ないか心配である。色々な人の意見や情報を集約して十分に計画を立ててやっていただきたい。それから、小学校の図書館に関わらせてもらっているが、教育委員会から「今ある予算で図書館を改造してもらいたい」と言われても、従来と同じ予算で改造となると微々たるもので、ちゃんと予算をつけてやらないと、結局ちゃんとしたものが出来ない。鳥海山の自然環境の学習の面でも危険防止や意見、情報のとりまとめ等、十分に検討していただき対応してもらいたい。

○池田議長 基本的にはこの方向で進むということなので、自然体験学習の関係ではこの事業を実施するには、この地域を知り尽くした人達から先頭に立ってやってもらうことが求められる。事業を実施していくためには予算をどうするか、配置をどうやるか等、具体的にはこれから実施にむけて検討してゆくことになるのでは。

○後藤地域振興課長 ボランティアという「無償」という言葉が浮かぶが、自然体験学習の件では謝金をお支払いするという事で学校教育課にて話が進んでいる。自然の各関係団体から作業部会に委員として入ってもらい今年1年をかけて内容を検討し、来年は試行として2校を選んで行い、3年目から本格的に実施といったスケジュールで進んでいる。

○阿曾千一委員 ひとつの情報提供の意味で「産業の振興」の中の「乳製品の加工」の件で、今とても業績が好調だが、「耕蓄連携」ということで、地元で採れた作物を食べさせた牛の乳を材料に使うって乳製品を作っている。そういった全体的なエコエリアな取り組みが現在、非常に評価及び注目されている。「たわわ」も評価され注目されているが、地域の特性に合った作物から乳製品に変えて行くそのつながりであるエコな取り組みを、もっと胸を張って情報発信しても良いのでは。山形県に「エコエリア山形」といった会議があって、そこで毎年審査会があり、そこで県知事賞になると全国の審査会に進めるといったものようだが、賞をもらえる、もらえない云々を別にして、八幡のそういった取り組みが管内でも非常に評価されている。

○後藤地域振興課長 地域ビジョンの件は過疎計画を作成した段階で、市長が過疎計画を作った段階で「旧3町の特色が出るような過疎計画の地域版を作ってみてはどうか」となったのがきっかけである。市の総合計画の地域版といった考え方もあるが、ソフト事業を地域ビジョンで文言で拾ってやって、それをやっ行ってこうということだ。先ほどから優先順位という話があったが、流れとしては事業を上げる前に地域協議会の委員の皆さんから意見をいただいて検討し、担当課やプロジェクトチーム、財政課等と協議してから決定することになるので、優先順位をつけるのは中々難しいかも知れない。いずれにしても事業は地域のGOサインが出ないと出来ないの、「この事業はもっとこうした方が良いのでは」等、委員の皆さんから意見を出してもらって今後検討して行くことになる。今回のこのビジョンはあくまでも、今後のあるべき姿を示したものとなっていて最終的にはソフト事業の実施ということになる。

○阿部喜至夫委員 地域ビジョンの目的としては、市長等や議会が理解すれば良いということとで一般の市民に周知するといったものではないということか。

○後藤地域振興課長 一般市民に周知するためにビジョンの概要版を作っている。

○阿部喜至夫委員 この概要版を市民に配布しても、すぐに理解するのは難しいのではないかと。理解していただくための手立ては考えているのか。

○後藤地域振興課長 まずは概要版を全戸配布して、その後ソフト事業を実施していくことになるので、こういったソフト事業を行うかといったものを市民の方にも示すことに

なる。

○池田議長 他に意見も無いようですので、以上で地域ビジョン（案）については終了させていただきます。

5 その他

○池田議長 続きますして5番のその他ですが、事務局で何かありますか。

○後藤地域振興課長 市長にこのビジョンを報告することになるが、今日あった意見を一部追加修正して正副会長に示し、一任という形で地域協議会の決定としてよろしいか。

○阿曾千一委員 会長、副会長がチェックして一任する形でよろしいのでは。

○池田久浩委員 今日、欠席した委員には、この資料を送るのか。

○後藤地域振興課長 この資料には月日が入ってないが、何月何日、地域協議会決定ということで送る。

○池田議長 それでは、正副会長に一任ということでご了解願います。

6 閉会

○長谷川副会長 これを持ちまして第3回目の地域協議会を閉会したいと思います。皆さん大変ご苦勞さまでした。